

東京都北区・あすか生活学校

地域

と学校の

コーディネーター役をになう







水でこね、平らにのばしたうどん粉を片手で持ち上げ、「一度やってみたかったんだ」と言いながら、「ピサーハット」と腰を振りながら、某ピザメーカーのCMを口ずさむ男の子。すかさず「ホラ、遊んでいないで、ちゃんと丸くするの」と、あすか生活学校の田丸せつ子さんの声が飛ぶ。

東京都北区で活動しているあすか生活学校が地元の西ヶ原小学校の五、六年生を対象にして、家庭科室で開いた「手打ちうどん教室」のヒトコマだ。この日は、二十名ほどの子どもたちが参加した。

うどん粉に塩を入れた水を加え、よくこねる。こねたら布で覆いしばらく置く。そのあと、ビニールでくるみ、足で踏む。麺棒で伸ばし、包丁で出来るだけ等間隔に切る。で、うどんは完成。次に、かつお節でだしをとるおつゆをつくる。具はネギ。

「包丁の先ではなく、手元に近づけ根元で切るのよ」「沸騰しそうになったら、水を加えて、これを「差し水」というのよ」と、子どもたちには、テーブルごとに先生役をつとめているあすか生活学校の面々が声をかける。こね始めてから、およそ一時間半後。ザルに盛ったうどんをおつゆにつけて、待望の味見。幅も、長さもマチマチの、市販されているものとは





土曜日に5、6年生を対象に開かれた「手打ちうどん教室」。講師は、あすか生活学校のサポーター役の古田定夫さんが努めた



一味違った、昔懐かしいうどんを子どもたちはお代わりをしていく。なかには、「お母さんにも食べさせてあげたいのー持って帰ってもいい？」という子もいる。

翌週、今度は、二年生のニクラス四十六名を対象に、牛乳パックを溶かし、濾ぎ、葉書を作る授業が行なわれた。うどん教室の前の週には、同じく、五、六年生を対象にした家庭科のミシン掛けの授業も同生活学校のメンバーが行なった。ほかにも六年生には茶道の授業、四年生には二年生と同じく牛乳パックの繊維を使つてのカレンダーづくり、三年生には給手紙づくり、一年生には七夕の短冊づくり、そして紙芝居などなど全学年にわたり、子どもたちの授業を受け持っている。

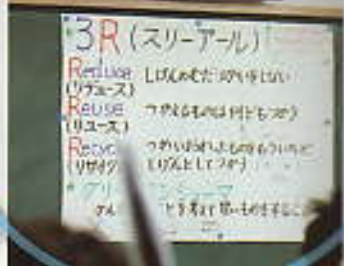
もちろん、単にモノをつくるだけでなく、例えば、さきほどの葉書づくりでは、リサイクル、リユース、リデュースの3Rすることの大切さを、茶道の授業では、お手前の伝授だけではなく、日本の伝統文化である茶道の奥深さをも語っていく。

生活学校は、消費者問題、子育て支援、高齢者支援などに取り組み女性を中心としたグループ。千近くの生活学校が全国で活躍している。その中の一つ、東京都北区で活動しているのがあすか生活学校。同生活学校が西ヶ





牛乳パックを使ってはがきづくりの授業は、火曜日2、3校時の90分授業。アイロンを使うのがはじめての子もいた。



原小学校に関わってから満八年が経とうとしている。学校とかかわるようになったきっかけは、平成十年、北区が教育ビジョンを策定し、子どもの育成を支援するための教育ボランティア団体を求めていることにはじまる。区報でこのことを知った田丸さんは、早速、地元の同校を訪ね、当時の島村校長に面会、一時間ほど話し合っって授業などの参加を求めていった。最初に子どもたちと一緒に作ったのが牛乳パックを使ったの葉づくりと七夕の飾りつけ。その後、七年間で、学校側からの要望や田丸さんたちの「このようにことをしたい」という提案が積み重なり、冒頭に紹介したように全学年の子どもたちとの関わりができた。授業の際、子どもたちと和気あいあい、楽しそうにしているが、「授業を受け持つのは、そう簡単なことではない」とも言う。とくに最初のうちは、「授業の予行演習と反省会は欠かさなかったし、モノを作ってもらった授業だけに時間配分には気を使う」とも言う。

しかし、ここで注目すべきは、単に受け持つ授業の多さだけではない。同生活学校は、小学校と地域の人たちとのつなぎ役の役割を果たしているといえよう。例えば、放課後の校庭開放。学校には、近くに公園などがない





こともあり、以前からその実施が期待されていた。しかし、子どもたちを見守る人が見つけれず、伸び伸びになっていた。同生活学校が見守る人を探し出し、毎週実施されるようになった。また、小学校を会場に、「認知症予防講座」などを開催し、住民が学校を訪問できるような仕組みづくりもしている。

もちろん、歴代の校長先生をはじめ教師の方々との協力関係も欠かせない。そのために、お互い何ができるかを示し、徹底的な話し合いのなかで、協力体制をつくってきたといえる。長く、同生活学校と関わってきた六年担任の利根澤先生。「ほんとうにあすか生活学校には助けられています」と実感のこもった声で言う。はじめて同生活学校が関わったときに、一年生だった子どもたちが、昨年卒業をされていた。

七夕の飾りつけから始まった同生活学校と学校との関わり合いは、大きく広がった。平成十八年度から西ヶ原小学校は、地域との関わりが認められ、コミュニティスクールに指定された。同校とあすか生活学校を始めとする地域の人たちの交流から創られるだろう新しい学校像に期待がかかる。

■ 一四一〇〇二四北区西ヶ原四一九一九  
あすか生活学校 代表 田丸せつ子